「話のたねのテーブル」より

# 気になる“植物の絶滅危惧種”(2)

廣田伸七

前回はイシモチソウやコモウセンゴケなど，生育地が湿地や湿原という限られた条件のものを絶滅危惧種の代表的なものとして取り上げたが，今回のオキナグサは全国で普通に見られた植物である。普通種は一般的に方言名が多く，オキナグサもウジノヒゲ（花巻），オネゴジョ（鹿児島），カエロッパ（茨城），シラガグサ（静岡）など約230もあるとされる。

**オキナグサ＜キンポウゲ科＞**

オキナグサは日当りのよい原野や芝地に生育する多年草で，根生葉は叢生して長い柄があり，葉は2回羽状複葉，根生葉や茎葉には長い白毛を密生する。4～5月頃に茎先に直径3cmほどの鐘形の花を下向きに開く。萼片は6個で外面が長い毛に覆われ，内面は暗赤紫色を呈する。花弁はない。花後に花柱が伸びて長い灰白色の毛をつける。花期の姿がきれいなので，採取され鉢植えの園芸植物としてよく売られる。

昔はふつうに山野に生育していたオキナグサがなぜレッドデータブックに記載されるようになったのか。茨城県の資料によると，以前は県内各地の山地，原野に生育していたが，現在はきわめて稀になった。原因は開発による破壊と草地の放置による荒廃，園芸用の乱獲によるとされている。春，山や草地を歩いていてオキナグサの独特な可憐な花に出会うとうれしいものである。オキナグサの保護対策を積極的にすすめるとともに，園芸用などの乱獲は厳に慎みたいものである。

（話のたねのテーブル No.229 より）

▲オキナグサの花期

▲花後のそう果は白い毛を密生する

公益財団法人日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話（03）3832-4188（代）
FAX（03）3833-1807
http://www.japr.or.jp/

編集人　日本植物調節剤研究協会　理事長　小川　奎
発行人　植調編集印刷事務所　元村廣司

発行所　東京都台東区台東1－26－6　全国農村教育協会
植調編集印刷事務所
電話（03）3833－1821（代）
FAX（03）3833－1665

平成26年7月発行定価540円（本体500円＋消費税40円）
植調第48巻第4号　（送料280円）

印刷所　㈲ネットワン